

背景

整備が必要なインフラ設備の増加や、少子高齢化による労働力不足が起こっている。そこで、自治体の点検にかかる手間や時間、人材の確保が問題になっている。

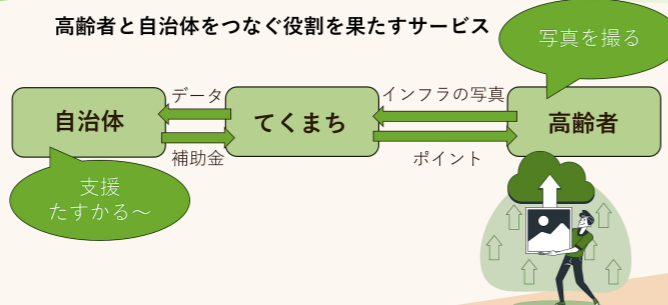
サービス内容

人手不足で困っている自治体から依頼を受け、「てくまち」を通じて、高齢者に写真の撮影を呼びかける。次に、通知を受け取った高齢者の中で、指定された場所が家から近い、などといった人が写真を撮りに出かけ、それを「てくまち」を通じて送信するのと引き換えに、ポイントを受け取る。そして、「てくまち」に集まった写真を、自治体が保守点検の代わりとして利用するという仕組み。

Cool Snowmanと連携すれば、

ポイントを使い若者に何かの手助けを依頼することもできる。また、ホーム画面中央にはデジタル上の盆栽「e-盆栽」があり、初回起動時に自分だけの盆栽が与えられ、インフラ設備の写真を撮るたびに、盆栽を育てることができる。伸びすぎた枝はポイントを使って剪定することも可能。さらに、フレンド機能、いいね機能や、ランキング機能があり、フレンドが依頼を達成したらいいねを付けることができたり、依頼達成の獲得ポイントを競い合うことができる。こうすることで近所の人や友達とのコミュニケーションをとれることが期待できる。

ていくまっち！のシステム



メリット

自治体のメリット

- 人手不足により保守点検が難しかった箇所の情報を得ることができ、インフラ整備につながる。
- 普段関わらない人との接点を作ることで、地域コミュニティの活性化を促すことができる。
- 人件費が削減できる

高齢者のメリット

- 外に出るから健康促進につながる。
- 写真を撮影したことを家族に通知するようになれば、見守りアプリとして機能する。
- 他のサービス (Cool Snowman) と連携して若者の力を借りられる。
- スマホの画面の中で盆栽を楽しめること。
- 右図のように高齢者の幸せスパイラルが生まれる



社会全体のメリット (SDGsの観点から)

- No3. 全ての人に健康と福祉を
- No8. 働きがいも経済成長も
- No11. 住み続けられる街づくりを

これらの目標の達成に近づく

(将来的な観点から)

- AI学習への活用
「てくまち」によって十分な量の画像データが手に入れば、正常なものだけでなく、異常な状態のデータも使った教師あり学習することができ、「正常」と「異常」という区別が出来る、より精度の高い画像診断が期待できる。

展望

将来はいろいろなサービスとつなげていきたい。例えば、Cool Snowmanのようなサービスとの連携などを行なっていきたい。また、AI損傷判定などのビッグデータとしても活用していきたい。

